

(様式4)

令和4年3月23日

富山県教育委員会教育長 殿

学 校 名 富山県立上市高等学校
校長氏名 清 水 卓

2021年度学校総合評価を別紙(様式5)とともに提出します。

2021年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

(1)教科指導

- ①基礎学力の定着に向け、自分の学力を把握するために各教科で基礎学力の内容を明示するとしていたが、教科によるばらつきと具体的な示し方が徹底しておらず効果があがらなかった。
- ②基礎基本を確認するために学期ごとの小テストで定着度を調査したが一部の教科にとどまった。
- ③「まなボード」や「タイマー」を利用しアクティブラーニングの要素を盛り込んだ授業を積極的に行うことができた。
- ④コロナ休業を機に全教員がリモート授業に取り組んだ。また、プロジェクターや個人タブレットを利用した授業で「わかる授業」を目指した取り組みが進んだ。

(2)生活指導

- ①基本的な生活習慣を確立するために生徒と教師との関係づくりに取り組み、教師からも積極的に挨拶をするよう心がけた。年間を通じた取り組みにより生徒玄関や上市駅構内などでも生徒から挨拶することが増え確実な効果が得られた。
- ②学校生活や社会生活に適応できるよう、頭髪、服装やスマホの扱い方など一定のルール(校則)が守れるよう、保護者にも協力を求め取り組んだ。再指導が必要な生徒には根気強く生徒と面談をしながら、内面からの成長を促した。

(3)進路支援

- ①上市町と連携し上市高校キャリア教育プログラム「職業を知る会」「職場見学」「インターンシップ」を実施している。地域連携や生徒の職業観育成に効果はあがっているが、コロナ禍のため、インターンシップ先を十分に確保することが難しかった。
- ②県内外進路研修や進路体験講座など中止や規模を縮小することになったため、進路意識を高める工夫として、夏季・冬季に専門講師を招聘し特別講義を実施した。

(4)特別活動

- ①学校生活充実のため生徒会約50名を中心となって、ボランティア活動に取り組んだ。しかし、本年度も新型コロナウイルス感染症対策のため高齢者施設での交流会には参加できなかった。8月の全国高校総体空手道競技には100名を超える生徒が6日間に渡って献身的に協力した。
- ②部活動が制限される中でも、部活動アンケートでは個人目標を達成した生徒は55%であった。

7 次年度へ向けての課題と方策

(1)学習活動

- ①わかる授業のために、ICT 機器やデジタル教科書を活用できるよう、教員研修の機会を充実させていく。
- ②基礎学力を高めるためには、生徒に必要性を理解させ、目的を明確にし、取り組みを継続させる必要がある。また、現状の学力を把握するには民間業者のノウハウを活用しタブレット PC を利用した「学び直し」の取り組みを進める。
- ③互見授業でアクティブラーニングの効果を互いに検証し自ら学ぶ授業を推進していく。

(2)学校生活

- ①全教員が生徒にあいさつをするよう心がけ、年間を通じて「あいさつ運動」に取り組む。
- ②基本的な生活習慣の確立と社会規範を向上させるため、生徒対応は丁寧に取り組む。家庭の協力が得られるよう連携しながら情報発信にも努めていく。

(3)進路支援

- ①上市高校キャリア教育プログラムを一層充実させるため更に上市町と連携し事業を推進する。
- ②上級学校へ進学する生徒には、早期に進路希望調査を実施し、目標を定め、意欲が向上するよう外部講師など招聘し活用していく。
- ③1年生から基礎学力を向上させるため民間業者を活用し進路選択の拡大を図る。

(4)特別活動

- ①ボランティア活動では多くの生徒が活躍できるよう、地域と連携し活動できる場所の確保に努める。
- ②部に登録をしているが、活動が不十分な生徒もいるため、参加意欲と競技力が高まるようスポーツエキスパートや外部コーチの活用を進めていく。

令和3年度 上市高等学校アクションプラン - 1 -		
1 重点項目	教科指導	
2 重点課題	基礎学力の定着に向けた教科指導の改善	
3 現 状	①現在の自分の学力を把握していないため、具体的な目標が立てづらい生徒が見られる。 ②基礎基本の確認として小テストの実施は教科によってばらつきがある。 ③教師と生徒双方向の授業展開ができるよう授業改善を進めている。 ④プロジェクターやノートパソコンなどICT機器を使用した「わかる授業」をめざした取り組みが進んでいる。	
4 達成目標	基礎学力の具体的目標を達成させ、教科指導の改善を図る。	各教科 小テスト平均 8割以上
	身につけてほしい基礎学力の内容を設定し、理解度確認のために各学期で授業中に小テストを実施し教科指導の改善に繋げる。	
5 方 策	①各教科で生徒に身につけさせたい基礎学力の内容をしっかりと明示する。 ②基礎学力が身につけているかを確認するため、学期ごとに、各教科で小テストを1回実施し、定着度を確認する。 ③-1 「まなボード」や「タイマー」に加えICT機器の指導法を研究・活用し、「主体的・対話的で深い学び」(アクティブラーニング)の要素を盛り込んだ授業を積極的に行う。 ③-2 授業に対する生徒アンケートを分析して、教科指導の改善に役立てる。 ③-3 互見授業と授業検討会を継続して実施し授業改善を図る。 ④校内外の研修に参加しICT機器活用による「わかる授業」を進める。	
6 達成度	①基礎学力の内容を知らせる活動は不徹底であった。 ②小テストの実施は数学・歴史など一部にとどまった。 ③-1 タイマーが各教室に設置されたため、以前より使用頻度は多くなった。 9月のリモート授業期間以降、タブレット・プロジェクターを使用する教員が増えた。 ③-2 生徒アンケートは行えなかった。 ③-3 互見授業は予定通り6月と11月の2回実施し、30名の参加があった。 ④校外の学習会を知らせた結果、ZOOM形式の研修会に参加した教員がいた。	
7 具体的な 取組状況	①基礎学力の内容を知らせることを職員間で共有することができなかった。 ②日本史Bでは授業ごとに配付する資料にテスト形式の内容を盛り込んだ。他科目では世界史Bや数学等で実施されている。 ③-1 ICT機器を使用した実践では国語科で生徒全員がタブレットPCを使用して意見を入力するとスクリーン上に個別に表示できるアプリを使った授業があった。生徒が積極的に授業に参加する様子が見られた。 ③-2 全校対象の生徒アンケートは行えなかった。 ③-3 互見授業では、教科の枠を超えて見学する教員も増え、教科内容にとどまらない研修活動が見られた。 ④富山大学主催のICT研修会に参加した教員がいた。	
8 評 価	C	
9 学校評議員の意見	基礎学力の向上はしっかり取り組んで欲しい。コロナ禍であってもICT機器を使った取り組みは有意義で企業側としても扱える新人はありがたい。	
10 次年度以降に向けての課題	①わかる授業をめざすため、ICT等の研修の機会を確保する方策。 ②基礎学力を高めるための効果的な方法。 ③新課程に対応した主体的で対話的に学ぶ授業を各教科で行っていく方策。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：後退した)

令和3年度 上市高等学校アクションプラン 年度末評価 - 2 -

1 重点項目	生活指導
2 重点課題	①基本的な生活習慣の確立 ②学校生活および社会生活への適応
3 現 状	①「基本的な生活習慣の自己管理」「身だしなみを整える」「公共のマナーを守る」等を指導重点として規律と秩序ある校風作りを進めている。 ②通学駅や玄関前での挨拶や服装指導を行っているが、コミュニケーションをとることが苦手な生徒や制服を着崩している生徒が見られる。 ③携帯・スマートフォンの校内使用違反者数は、年間延べ数でR2年度は187件とH31年度より10%減少している。違反を見逃さない指導のあり方を確認し、保護者をまき込んだ指導の強化をしながら校内での取り扱いを徹底している。また、友人関係のトラブルの原因の大半がSNSの利用と関連しており、生徒のSNS利用のマナーを向上させることが求められる。ネットパトロールによる指導は、減少しているものの生徒が重大犯罪に巻き込まれないためにも、引き続き指導が必要である。
4 達成目標	①②『自分から率先して「挨拶」を行い、「服装」を正しく着用する生徒の育成』 ③携帯電話の違反数(ルール違反・ネットパトロールによる指導)の件数の減少 ①挨拶:授業前後、校内60%以上 ②再指導生徒10%未満 ③前年比10%の減少(件数)
5 方 策	①②事前に生徒・保護者へ指導日を連絡し、家庭での協力を依頼する。頭髪、服装の計画的な自己管理が出来るように生徒の意識改善を促す。 また、毎朝、挨拶を交わしながら生徒とのコミュニケーションをとる。 さらに、進路指導と絡めて、社会人としての在り方を考えさせ、生徒主体の指導体制を工夫し、生徒の内面的な成長を促す。 ③生徒がいじめ等のトラブルや犯罪に巻き込まれないようにするとともに、学習への悪影響を防ぐため、SNSを利用する際の学校独自のルールを考え、生徒・保護者の意識の改善を図る。また、違反した生徒は、家庭に連絡し、学校の指導方針を理解してもらい協力を得る。違反累積回数により特別指導を行う。
6 達成度	①挨拶については、全職員の協力を得、生徒自ら挨拶ができる雰囲気作りを行い、玄関前、上市駅構内、授業のはじめと終わりに声を出して挨拶をする生徒が確実に増えている。 ②令和3年度の定期頭髪服装指導で再指導を必要とした生徒は、1学期14.8%、2学期15.3%、3学期19.7%で平均16.6%と高い状態であった。原因の一つとして、男子の流行の髪型が規定に反していることが考えられる。しかし、根気強い継続的な指導が必要な生徒がいるが特に目立った髪型の生徒は減少している。引き続き、個々の生徒と面談をし、内面からの成長も促しながら指導していきたい。 ③令和3年度3学期1月までの段階で、スマートフォンの使用違反延べ数は235件で、昨年同時期より25%増加した。主な原因として、1・2年生の増加傾向があり、引き続き全体への指導に加え、学年との協力体制や生徒1人1人に応じた個々の指導と家庭でのルール作りも必要である。また、ネットパトロール指導は、今年度は0件であった。
7 具体的な取組状況	①毎朝の上市駅や生徒玄関前での挨拶や服装指導の声かけを教員だけでなく、さわやか委員の生徒と一緒にしながら、生徒主体の取り組みや生徒間での意識作りを大切にしている。また、生徒自らが月毎の指導重点目標を設定し、放送で呼びかけながら、生徒が具体的な目標をもって生活できるようにした。 ②コロナ禍で頭髪服装指導も密をさける工夫をし、重点的な指導にした。 ③ネットトラブル教室、薬物乱用防止教室、性教育などの外部の専門家の講話を通して規範意識を高めるように指導した。
8 評 価	C
9 学校評議員の意見	基本的な生活習慣の確立は社会人になっても大切なことで、今後も学校全体で継続して取り組んで欲しい。
10 次年度以降に向けての課題	①服装違反、スマートフォンの使用違反に対する指導強化の継続と家庭でのルール作りを進める指導。 ②将来を見据え、基本的な生活習慣の確立やルール・マナーを守る姿勢、我慢と思いやりの心を育てる指導。 ③遅刻常習などの原因を生徒と考え、保護者の理解と協力を得て根本的な問題解決を図る指導。

令和3年度 上市高等学校アクションプラン - 3 -

1 重点項目	進路指導		
2 重点課題	生徒の職業観を早期に育て主体的に進路先を探していくための情報提供と進路指導		
3 現 状	<p>①自分の進路先についてなかなか決められない生徒もいるため、しっかりとした職業観を育てていく必要がある。</p> <p>②県内外進路研修、進路体験講座など多くの進路学習が行われているが、生徒は受動的であり、個々の活動を系統的に生かし、進路意識を高めていくことが必要である。</p>		
4 達成目標	1 学年 看護・理学療法士施設見学など、体験的行事に参加する生徒数 10 名以上	2 学年 就職希望者のうち、インターンシップに参加する生徒の割合 100%	3 学年 第一希望の進学合格率と就職内定率 90%以上
5 方 策	<p>①- 1 キャリア教育の3本柱である「職業を知る会」「職場見学」「インターンシップ」に多くの生徒が参加することで、早期に職業に触れ、職業観を育成していく。</p> <p>①- 2 北陸の大学や医療系の学校の入試難化や、推薦を含めた入試制度の改革に対応し、入試関係の情報を随時、生徒・保護者に提供する。</p> <p>②- 1 新型コロナウイルス感染拡大等の影響で景気が減速し、求人の減少が予測されるため、企業の採用情報を的確につかみ、情報提供に努める。</p> <p>②- 2 オープンキャンパスや看護・理学療法士施設見学など、体験的な学習への参加を生徒に勧め、受験への意欲付けや就職後のギャップを減らす。</p> <p>②- 3 教職員の進路研修の一環として、主に進路実績のある大学・短大等の学校説明会や入試説明会への参加を勧める。</p>		
6 達成度	新型コロナウイルス感染症に収束の兆しが見られないなか、医療関係の行事を計画した。しかし、感染への懸念や日程が合わないという理由から、参加者は2名にとどまった。	4月実施の進路希望調査で就職を希望した57名のうち、今年インターンシップに参加したのは17名(29.8%)であった。8月上旬を中心に実施したため、進学希望者も参加し、参加者43名、事業所数20社となった。	第一希望の進学合格率96%、就職内定率86%であった。数字上では進学希望者が目標達成といえるが、AO入試による合格者が増え、難関上級校での合格が少ないという現状にある。就職内定率は、目標に達しなかったが、昨年よりも14ポイント上昇した。
7 具体的な取組状況	<p>①新型コロナウイルス感染症の影響が心配されたが、「職業を知る会」「インターンシップ」「職場見学」を実施できた。しかし「インターンシップ」は昨年同様に規模を縮小しての実施とした。</p> <p>②進学希望者を中心に「進路体験講座」を夏季・冬季の2期実施。校内で専門の講師陣から講義を受けることで個々の知的好奇心・進学意欲の深化を図ることができた。</p> <p>③3年生就職希望者に対して「応募前職場見学」に積極的に取り組ませた。複数社の見学を通して本人の適性と希望に合った選択ができるように、担当者が中心となって事業所と連絡を密にとったことにより、出願先の決定を円滑にすすめることができた。</p>		
8 評 価	C	C	B
9 学校評議員の意見	上市町の地元企業と連携し上市高校「キャリア教育プログラム」が実施されていることは大変素晴らしい。企業説明や企業訪問をきっかけに就職する生徒がいることは地元として大変心強い。		
10 次年度以降に向けての課題	<p>①本校キャリア教育の柱である「職業を知る会」「職場見学」「インターンシップ」は、地域を中心に認知されてきたが、継続的な開催に向けて、現状を把握し、検討を重ねていく必要がある。特に「職業を知る会」は定期考査期間以外で開催できるように日程調整を要する。</p> <p>②数々の校外研修が中止される状況にあるが、上級学校で学ぶことの楽しさを体験させるためにも、校内での外部講師によるオープン講座の実施を継続させる必要がある。依頼先や講座内容に関して生徒の希望をより反映させ進学意欲の向上につなげたい。</p> <p>③就職希望者の内定獲得をより確実にするために、各事業所が求める人物像(能力・成績・適性)に関する情報を収集する必要がある。本校卒業生の状況把握も兼ねて、採用担当者との情報交換を密に行い、信頼関係の構築を図る必要がある。</p>		

令和3年度 上市高等学校アクションプラン 年度末評価		— 4 —
1 重点項目	特別活動	
2 重点課題	部活動やボランティア活動、異年齢交流を通しての学校生活の充実	
3 現 状	<p>①校内外の行事に対して生徒会執行部は活発だが、一般生徒の意識はそれほど高くない。令和3年度はボランティアサポーター登録数165名、参加延べ人数112名が校外ボランティアに参加し充実感を得ている。しかし、在学3年間で一度も参加しないなど活動意欲が不十分な生徒も見受けられる。</p> <p>②部登録はしているが活動していない生徒や、安易に退部する生徒も多く見られる。継続して部活動に取り組んでいる生徒は全体の60%である。部活動加入者の約25%の生徒が部活動を積極的に行ってきた（行っている）と答えた。</p>	
4 達成目標	①ボランティア等の校外活動の参加数	② 部活動の個人目標を達成した生徒の割合
	延べ人数 200名以上	60%以上（1月にアンケート実施）
5 方 策	<p>① 生徒会及び各種委員会と連携を図りながら、活動の輪をひろげる。</p> <p>② 地域交流や校外でのボランティア活動、クリーン活動、家庭クラブ活動に対する広報活動を活発にし、参加していることへの自覚を深める。</p>	<p>①部活動の必要性や魅力を理解させ、体力や技術、意識の向上とともに、人間的な成長と個性の伸長を実感させ、学校生活の充実を図る。</p> <p>②部長会議を各学期2回実施し、状況把握を行うとともに、必要な対策を行う。</p>
6 達成度	<ul style="list-style-type: none"> 1月末現在、ボランティアサポーター登録数165名（昨年度131名）、参加延べ人数112名（昨年度末100名）が校外ボランティアに参加した。コロナ感染対策で高齢者施設を中心にボランティアに参加できなくなり、生徒は意欲があっても参加できない状態が継続した。 8月に開催されたインターハイ空手道競技では、会場準備や大会運営の補助役員として生徒会執行部の生徒をはじめ100名以上の生徒が6日間にわたって献身的に活動した。 	<ul style="list-style-type: none"> 1月に「部活動アンケート」を実施した。「部活動で自分なりの目標を達成できた」という生徒が1年で44.1%、2年で50.8%、3年で76.9%、全校では54.7%という結果になった。部活動に加入している生徒の内、約55%の生徒が個人目標を達成できたと感じている。 コロナ禍の影響で休校等も発生し、部活動が制限されたり、大会が縮小されたりして、生徒は十分な活動ができなかった。その中でも「自分なりにやれることはやった」という思いが、3年生には強かったようだ。
7 具体的な取り組み状況	<p>コロナ禍で人と人との接触や地域行事等が制限され、例年行われていた地域行事への生徒の参加やボランティア活動ができなくなったことは大変残念であった。その中でも生徒会執行部やボランティアサポーターが中心になって上市町や滑川市の行事に生徒が参加した。「絵本読み聞かせ」に9名、「歳末たすけあい運動募金」に7名、「滑川児童クラブ行事補助」に34名が参加するなどした。</p>	
8 評 価	C	B
9 学校評議員の意見	<p>町民は地域と関わりながら活動している上市高校生をしっかりと見ている。今後もどんどん地域に出ている事を感じて欲しい。また、学校側は地域の人と関われるチャンスをさらに作って欲しい。</p>	
10 次年度以降に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 運動部、文化部ともに、活動の活性化を図るために、引き続きエキスパートや外部コーチの活用を進める。 部活動に登録しながらも参加が不十分な生徒への働きかけや意欲の喚起を図る。 ボランティア等の校外活動でも、多くの生徒が活躍できる環境作りに努める。また、生徒が社会に貢献している活動内容を外部に発信し、本校のPRを図る。 	